



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

令和2年11月15日(日)
上町ストリート「木都のマルシェ」に参加 編

能代には冬まつりが無いということで、平成19年2月からのしろ白神ネットワーク(以下、NW)主催で始めた「のしろまち灯り」。翌年8月から平成26年までは、毎夏にも開催されていました。

当時の能代ではNWのような小さな任意団体が歩道の占有や歩行者天国を実施することは新しいことでしたが、市内外の活動団体や学校等と連携し続けてきたことが下地となつて、平成18年からは6～11月の第3日曜日に上町通りで「ときめ木マルシェ」が開催されるようになっています。

今年は新型コロナウイルス感染症の流行を受け、春夏の開催は見送られましたが、9月からは再開。いつもはベンチやテーブル等を貸し出す「後援」にとどまっているNWですが、最終回11月のテーマは「木都(もくと)のマルシェ」と木にこだわった企画。スペースをいただき、ちょうど開催中のシーララリーと端材市で参加させていただきました。

11月もなかばの屋外イベントということで、天候が心配でしたが、そんなことは全くの杞憂に。風もなく穏やかな秋空が広がり、ご褒美のようなイベント日和となりました。

10時を過ぎると、家族連れや友人と連れ立って歩く人などが、高校生ボランティアによる検温・受付を通過して次々とやってきます。出店者の屋台も通りのベンチ・テーブルも木製。スギの薪投げゲーム・クップ、木製おもちゃコーナー、ナツたっぶりの木の実のピザ(窯の燃料は檜山産の炭)と正に木づくし。この先も色々な「木」が楽しめるイベント、脱プラスチック社会のイベントとして続いてほしいですね。

文：渡辺 千明



今年は9月から3回限定の開催です。



通りの両端には受け付けを設置。スギボードを置いて距離に気をつけました(上)。デザインも大きさも異なる木製機材でも、並ぶと何となくまとまった雰囲気(下)。



小さな子どもや親子に人気だった木のおもちゃ、木の動物園コーナー(上)。

NWのシーララリーコーナー(左)と端材市(右)。あつと言う間に大小様々な樹種と形の木材がなくなりました。

